

ケアネットせとうち通信

安心して暮らせる地域を目指して

瀬戸内市在宅医療多職種連携研修会

「平成30年 医療介護同時改正の影響 ～介護保険の今後の行方～」

【日 時】 平成30年7月19日(木) 19:00～20:30

【講 師】 NPO 法人岡山県介護支援専門員協会
会長 堀部 徹 氏

【参加者】 101人



今年度、介護報酬と診療報酬が同時改定され、医療・介護の役割分担と連携をより一層推進し、地域共生社会の実現に向けた取り組みが求められています。

堀部先生からは、瀬戸内市や近隣市町の人口推計や医療介護の需要予測などをお示しいただき、データに基づいた事務所運営の重要性、また同時改定の要点等についてご講演いただきました。

参加者からは、「何のための改正なのかよくわかった」「医療と介護の連携、質の向上がより求められている改正内容と感じた」等、多数のご感想をいただき、学びの多い研修会となりました。

共催：岡山県介護支援専門員協会瀬戸内支部

閉会挨拶 木村支部長



「認知症ケア」について学びました！

【日 時】 平成30年9月13日(木) 19:00～20:30

【講 師】 公益財団法人慈圭会 慈圭病院
看護副部長 秋山 千広 氏

【参加者】 116人

秋山先生を講師にお迎えし、「認知症ケア」と題し、講演とグループワークを行いました。講演の最初に慈圭病院の紹介動画を流していただき、緊張していたのがほぐれて、リラックスすることができました。

秋山先生からは、認知症のタイプ別（アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型）の症状の違いや、薬を使わない関わり方について、実際に病院で実践していることを事例を交えてお話いただきました。

関わる相手の方の症状をよく観察し、その症状を使った対応方法など、参加されている方の日常の業務に活かせるヒントになるお話でした。



トータルサポートセンター

障害者基幹相談支援業務に取り組んでいます



トータルサポートセンターはここです！



障害者基幹相談支援業務ってなあに？

地域における障害者の相談の中核的な役割を担うようになります。障害者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、地域の相談支援機関の様々な相談に応じます。



どんなことをするの？

主に4つの業務があります。

- ①総合相談、専門相談
障害者の相談支援専門員や障害福祉サービス事業所などで対応に困るようなことがあれば相談してください。
- ②相談支援体制の強化、人材育成
地域の相談支援専門員と連携していきます。障害福祉サービス事業所などで抱える課題を整理し、人材育成のために研修などをしていきます。
- ③体制づくり
障害福祉分野の専門職も加わっていただきながら、今までどおり多職種で顔の見える関係づくりを推進していきます。地域全体でのネットワーク強化を目指します。
- ④地域移行・地域定着の促進の取り組み
精神科病院へ長期に入院している人などが、地域で生活できるように働きかけていきます。



いつから実施しているの？

平成30年4月からです。平成30年10月からは、市内の社会福祉法人に委託して障害者相談支援専門員の方にも業務を担っていただいています。





地域生活支援センタースマイルがあるけれど、何が違うの？

地域生活支援センタースマイルでは、障害者やその家族からの相談を受けています。その他にも、障害者の日中の活動の支援をしたり、ボランティアの養成を行ったり、障害福祉サービス利用のための計画作成も行っています。トータルサポートセンターでは、障害福祉サービス事業所などで対応に困るようなことがあれば相談を受けて、課題を解決できるように一緒に考えていきます。また、障害福祉に従事する専門職を対象にした研修を開催するなどの人材育成を図り、障害者の相談体制を充実させていきます。



どんなまちになっていくの？

高齢者も障害者も「だれもがいきいきと暮らせるまち」にしていけます。それぞれの人がかうありたいという願いを叶えられるように、暮らし方を選択できるようなまちにしていきたいと思っています。



知ってほしい 障害のこと



「あいサポート運動」のシンボルマークです
前号の答えです。聞いたことがありますか？

「あいサポート」とは・・・

「愛情」の「愛」、私の「I」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組み合わせ、障害のある人を優しく支え、自分の意志で行動する(ちょっとした手助けをする)ことを意味しています。

様々な障害の特性や障害のある人が困っていること、そしてそれぞれに必要な配慮を理解し、ちょっとした手助けや心くほりを実践することで、誰もが暮らしやすい地域社会(共生社会)の実現をめざしていく運動をあいサポート運動といいます。

あいサポーターになるためには

あいサポーター研修等に参加し、あいサポートバッジを受けとることで誰でもあいサポーターになることができます。

- まず、障害について理解しましょう
 - ・障害は誰にでも生じる可能性があります
 - ・障害は多種多様で同じ障害でも一律ではありません
 - ・外見からは障害のあることが分からない人もいます
 - ・適切なサポートがあれば、障害のある人が活躍できることがたくさんあります
- そして、こんな配慮をお願いします
 - ・困っていそうな場面を見かけたら「何かお困りですか」と一声かけてサポートしましょう
 - ・「障害があるから」と決めつけず、個性や能力が活かせることを一緒に考えてみましょう
 - ・介助者がいても、本人に話しかけましょう
 - ・自分のイメージですべての障害のある人をみないで、その人の人柄を見て接しましょう

詳しくは、岡山県障害福祉課のホームページへ

岡山県障害福祉課
あいサポート運動



在宅医療看護研修会を開催しました

とき：平成30年11月17日（土）
場所：瀬戸内市民病院さんさんホール

座長：長田 建氏
(邑久医師会 副会長)



講演

「地域がん診療連携拠点病院と在宅医療介護連携
～アドバンス・ケア・プランニングの取り組み～」
講師：喜多嶋 拓士氏（岡山赤十字病院 緩和ケア科部長）



喜多嶋 拓士氏

事例発表

がん患者の在宅支援を考える ～人生の最終段階における意思決定を支援するために～

「選択肢のある地域へ」

横谷 奈穂氏（邑久在宅介護支援センター 主任介護支援専門員）



横谷 奈穂氏

「『最期まで猫と一緒に暮らしたい!!』を考える」

久本 澄子氏（看護小規模多機能ホームかおり 管理者）



久本 澄子氏

岡山赤十字病院の喜多嶋先生をお迎えし、「ACP=アドバンス・ケア・プランニング」の基本的な考え方と進め方について丁寧に話をいただきました。日頃から本人や家族、医療者等が信頼関係を築き、その人の最善の利益を考え、最悪に備えるために話し合い、一緒に考えていく過程が大切であるということをお話いただきました。

事例発表では、いずれも本人の意思をふだんの関わりの中で把握し、家族と医療・介護関係者が思いに寄り添った在宅支援を実践されている事例を発表いただきました。

その後、意見交換を行い、「病状の変化によって、本人の意向も変化していくことを理解する」「ACPはタイミングが大切」といった意見が出ていました。



せとうちカフェ

平成30年11月22日（木）

家族とのかかわり、困っていませんか？
～伝え方の難しさとお受容～

今回は47名が参加し、初めての方が9名でした。

利用者さんの家族が遠方にいたり、高齢だったり、伝えることが難しくなっているようです。参加者からは「専門用語を使わないようにする」、「書いたものと一緒に渡す」など工夫をしているという意見や、まずはご家族と信頼関係をつくるという意見が出ました。

参加されるみなさんは、自分の飲みものとおやつとお茶菓子を持ってきて、「カフェ」のような雰囲気の中で、リラックスして話をします。まだ、参加したことがない方も、ぜひご参加ください。

「せとうちカフェ」

今回で16回目。

医療職・介護職・福祉職が参加。顔の見える関係づくりと日頃のケアの相談、地域ケア向上に向けた交流の場。世話人である「せとうちカフェ協力隊」のボランティアの皆さんで運営しています。

事務局

トータルサポートセンター



←楽しくテーマに
そっておしゃべり



せとうちカフェ協力隊
による振り返り

次回は…
平成31年2月14日
開催予定

トータルサポートセンター（ケアネットせとうち事務局）のご案内

医療・福祉・保健等に関する総合的な相談を受け、多職種連携で支援を行います。

【相談対応職員】

保健師

【相談時間】

午前8時30分～午後5時15分
(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

【所在地】

瀬戸内市邑久町山田庄845番地1
(瀬戸内市民病院1階 玄関南側)

【電話番号】(0869) 22-3800

【ファックス番号】(0869) 22-3801



ケアネットせとうち